

講義概要

SYLLABUS

令和7年度

1年後期

理学療法学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

講義名	解剖学Ⅱ（神経、脈管、内臓）		
講 師	伊藤 望美	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学Ⅱを講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学Ⅱを講義する。	
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系に所属する器官の所在・形状・構造上の特徴について理解する。循環器系では心臓の構造、全身の動静脈の走行、リンパ管系について理解する。体性感覚をつかさどる外皮、特殊感覚をつかさどる嗅覚器・味覚器・視覚器・平衡聴覚器についても理解する。		
授業計画	内 容		
第1回	感覚器　・・・聴覚器		（日良）
第2回	感覚器　・・・平衡感覚器		（日良）
第3回	感覚器　・・・視覚器（眼球）		（日良）
第4回	感覚器　・・・視覚器（副眼球）		（日良）
第5回	感覚器　・・・外皮、嗅覚器		（日良）
第6回	感覚器　・・・味覚器		（日良）
第7回	循環器系・・・総論、心臓の構造		（伊藤）
第8回	循環器系・・・肺循環		（伊藤）
第9回	循環器系・・・体循環に関する動脈（上下肢、体幹）		（伊藤）
第10回	循環器系・・・体循環に関する動脈（脳）		（伊藤）
第11回	循環器系・・・体循環に関する静脈		（伊藤）
第12回	循環器系・・・リンパ管		（伊藤）
第13回	循環器系・・・リンパ性器官（リンパ節、脾臓）		（伊藤）
第14回	消化器系・・・口腔、咽頭		（伊藤）
第15回	消化器系・・・食道、胃		（伊藤）
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：日良		
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第6版」（医学書院）		
参考図書 その他	「プロメテウス解剖学コアアトラス　第4版」（医学書院）		

講義名	解剖学Ⅱ（神経、脈管、内臓）	
講 師	伊藤 望美	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学Ⅱを講義する。
	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学Ⅱを講義する。
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）	
講義目標	消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系に所属する器官の所在・形状・構造上の特徴について理解する。循環器系では心臓の構造、全身の動静脈の走行、リンパ管系について理解する。体性感覚をつかさどる外皮、特殊感覚をつかさどる嗅覚器・味覚器・視覚器・平衡聴覚器についても理解する。	
授業計画	内 容	
第16回	消化器系・・・小腸	（伊藤）
第17回	消化器系・・・大腸、肛門管	（伊藤）
第18回	消化器系・・・大唾液腺、肝臓	（伊藤）
第19回	消化器系・・・胆嚢、膵臓	（伊藤）
第20回	呼吸器系・・・鼻腔、副鼻腔	（日良）
第21回	呼吸器系・・・咽頭、喉頭	（日良）
第22回	呼吸器系・・・気管、気管支	（日良）
第23回	呼吸器系・・・肺、胸膜、縦隔	（日良）
第24回	泌尿器系・・・腎臓	（日良）
第25回	泌尿器系・・・膀胱	（日良）
第26回	泌尿器系・・・尿管、尿道	（日良）
第27回	生殖器系・・・男性生殖器	（日良）
第28回	生殖器系・・・女性生殖器	（日良）
第29回	内分泌系・・・松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島	（日良）
第30回	内分泌系・・・腎臓、下垂体、視床下部、消化管、心臓、胸腺	（日良）
履修上の注意		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：日良	
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版」（医学書院）	
参考図書 その他	「プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版」（医学書院）	

講義名	解剖学演習		
講 師	日良 葉子	病院で理学療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学演習を講義する。	
学年・期	1年後期。1単位。30時間（演習）		
講義目標	解剖学の知識をもとに体表からの触知を行えることを目標とする。		
授業計画	内容		
第1回	体表解剖総論		
第2回	上肢の筋（肩甲骨周囲の筋）		
第3回	上肢の筋（上腕前面の筋）		
第4回	上肢の筋（上腕後面の筋）		
第5回	上肢の筋（前腕後面の筋）		
第6回	上肢の筋（前腕前面の筋）		
第7回	下肢の筋（殿部の筋）		
第8回	下肢の筋（大腿前面の筋）		
第9回	下肢の筋（大腿内側の筋）		
第10回	下肢の筋（大腿後面の筋）		
第11回	下肢の筋（下腿の筋）		
第12回	体幹の筋（頸部の筋）		
第13回	体幹の筋（体幹の筋）		
第14回	解剖見学実習		
第15回	解剖見学実習		
履修上の注意	トレパン、半袖など体表部の触知のしやすい格好とする。		
成績評価	実技試験（20％）、期末試験（80％）を総合的に判断する。単位認定者：日良		
テキスト	「運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）改訂第2版」（メジカルビュー社） 「運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）改訂第2版」（メジカルビュー社）		
参考図書 その他	「骨格筋の形と触察法」（大峰閣） 「プロメテウス解剖学コアアトラス第4版」（医学書院）		

講義名 生理学Ⅱ

講 師 菅野 武史

学年・期 1年後期、2単位、60時間（講義）

講義目標 生理学Ⅱにおいては、生物（動物・植物）共通にみられる機能について理解する。

授業計画	内容
第1回	血液の組成と機能
第2回	赤血球の機能
第3回	赤血球の新生、破壊
第4回	白血球の機能
第5回	身体の防御機構
第6回	血小板の機能
第7回	血液凝固反応
第8回	血しょう、血液型
第9回	心臓の興奮と刺激伝導系
第10回	心電図
第11回	心周期
第12回	血液の拍出と血圧
第13回	血圧の調節
第14回	微小循環
第15回	静脈還流

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：菅野

テキスト 「PT0T 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版」（医学書院）

参考図書
その他

講義名	生理学Ⅱ
-----	------

講 師	菅野 武史
-----	-------

学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）
------	-------------------

講義目標 生理学Ⅱにおいては、生物（動物・植物）共通にみられる機能について理解する。

授業計画	内容
第16回	臓器循環
第17回	呼吸運動
第18回	呼吸気量
第19回	ガス交換とガスの運搬
第20回	呼吸の調節
第21回	尿の生成
第22回	酸塩基平衡
第23回	消化と吸収（口腔～胃）
第24回	消化と吸収（十二指腸～大腸）
第25回	栄養と代謝
第26回	視床下部、下垂体の内分泌
第27回	甲状腺、副甲状腺の内分泌
第28回	副腎皮質、副腎髄質の内分泌
第29回	膵臓、性腺の内分泌
第30回	生殖と発生、成長と老化

履修上の注意

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：菅野
------	----------------------

テキスト	「PT0T 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版」（医学書院）
------	---

参考図書 その他

講義名	生理学演習		
講 師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約26年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
	高橋 優基	病院で理学療法士として約14年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
	前田 剛伸	病院で理学療法士として約12年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
	藤原 聡	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
学年・期	1年後期、1単位、30時間（演習）		

講義目標 各種機器を用いて生体反応をみるなかで生体の各機能について理解する。

授業計画	内容		
第1回	筋機能解析		（前田）
第2回	筋機能解析		（前田）
第3回	誘発筋電図（神経伝導検査）		（嘉戸）
第4回	誘発筋電図（H波、F波）		（嘉戸）
第5回	誘発筋電図（SP、LLR、SEP）		（嘉戸）
第6回	重心動揺分析（検査方法、測定項目）		（高橋）
第7回	重心動揺分析（データ計測、ディスカッション）		（高橋）
第8回	三次元動作解析（計測方法、測定項目）		（高橋）
第9回	三次元動作解析（データ計測、ディスカッション）		（高橋）
第10回	筋電図解析（表面筋電図とは）		（高橋）
第11回	筋電図解析（計測方法、注意点）		（高橋）
第12回	筋電図解析（立ち上がり動作の筋電図計測）		（高橋）
第13回	筋電図解析（歩行動作の筋電図計測）		（高橋）
第14回	呼気ガス分析		（藤原）
第15回	呼気ガス分析		（藤原）

履修上の注意			
成績評価	評価表を用いて判断する。レポートなどの提出物を課した場合は、その成果も成績に加味する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「PTOT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版」（医学書院） 「基礎運動学 第7版」（医歯薬出版）		
参考図書 その他			

講義名	運動学	
講 師	高橋 優基	病院で理学療法士として約14年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。
	楠 貴光	病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）	

講義目標 運動器を中心に人体の構造と機能について理解する。

授業計画	内容	
第1回	生体力学の基礎	（高橋）
第2回	生体の構造と機能	（高橋）
第3回	運動の方向	（高橋）
第4回	運動の軸・関節構造	（高橋）
第5回	頭頸部の運動	（楠）
第6回	顔面の運動	（楠）
第7回	摂食嚥下に関与する運動	（楠）
第8回	胸椎部の運動	（楠）
第9回	腰椎部の運動	（楠）
第10回	呼吸時の胸郭の運動	（楠）
第11回	肩甲帯の運動	（楠）
第12回	肩関節の運動	（楠）
第13回	肘関節の運動	（楠）
第14回	前腕の運動	（楠）
第15回	手関節の運動	（楠）

履修上の注意	講義内容は実技の際は、運動可能な服装で受講すること（事前に連絡する） 講義内容により教室が変更する可能性がある（各自週間時間割で確認すること）
--------	--

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：高橋
------	----------------------

テキスト	「基礎運動学 第7版」（医歯薬出版） 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」（医歯薬出版）
------	---

参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「The Center of The Bodyー体幹機能の謎を探るー」（アイペック）
-------------	---

講義名	運動学	
講 師	高橋 優基	病院で理学療法士として約14年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。
	楠 貴光	病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）	

講義目標 運動器を中心に人体の構造と機能について理解する。

授業計画	内容	
第16回	手指の運動	（楠）
第17回	股関節の運動	（高橋）
第18回	股関節の運動	（高橋）
第19回	膝関節の運動	（高橋）
第20回	膝関節の運動	（高橋）
第21回	足関節、足部の運動	（高橋）
第22回	足関節、足部の運動	（高橋）
第23回	姿勢（重心、支持基底面、安定性の要素）	（高橋）
第24回	姿勢（姿勢の名称、運動学的特徴）	（高橋）
第25回	歩行動作（各種パラメータ、歩行周期）	（高橋）
第26回	歩行動作（関節運動、筋活動）	（高橋）
第27回	歩行動作（運動力学）	（高橋）
第28回	歩行動作（高齢者・小児、異常歩行）	（高橋）
第29回	運動学習（記憶、学習の段階）	（高橋）
第30回	運動学習（練習、動機づけ、フィードバック）	（高橋）

履修上の注意 講義内容は実技の際は、運動可能な服装で受講すること（事前に連絡する）
講義内容により教室が変更する可能性がある（各自週間時間割で確認すること）

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：高橋

テキスト 「基礎運動学 第7版」（医歯薬出版）
「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」（医歯薬出版）

参考図書 「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）
その他 「The Center of The Bodyー体幹機能の謎を探るー」（アイペック）

講義名	人間発達学		
講 師	大沼 俊博	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、人間発達学を講義する。	
学年・期	1年後期、1単位、30時間（講義）		
講義目標	医療・保健・福祉の対象は人間であり、人間が生まれて高齢者になるまで年齢幅、身体・精神など発達の相違がある。効果的な理学療法を実施するためには人間の発達過程を十分理解し、対象者の発達に応じた的確なアプローチをとることが重要である。人間の発達の観点から人間を理解する。		
授業計画	内容		
第1回	人間発達学総論(小児期、青年期、成人期、老年期の発達過程)		
第2回	胎児期の発達		
第3回	新生児期の発達		
第4回	生後1ヶ月の発達		
第5回	生後2ヶ月の発達		
第6回	生後3ヶ月の発達		
第7回	生後4ヶ月の発達		
第8回	生後5ヶ月の発達		
第9回	生後6ヶ月の発達		
第10回	生後7ヶ月の発達		
第11回	生後8ヶ月の発達		
第12回	生後9ヶ月の発達		
第13回	生後10ヶ月の発達		
第14回	生後11ヶ月の発達		
第15回	生後12ヶ月の発達		
履修上の注意	実習可能な服装を用意すること。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：大沼		
テキスト	「写真で見る乳児の運動発達―生後10日から12ヵ月まで」（協同医書出版社） 「運動発達と反射 反射検査の手技と評価」（医歯薬出版）		
参考図書 その他			

講義名	病理学
講 師	岩井 重寿
学年・期	1年後期、1単位、30時間（講義）
講義目標	病理学は疾病の本態を主に形態学的観点から学ぶ学問である。疾病は病因、発生機序、経過および予後から成り立っている。授業では、各種の疾病を理解するうえでの細胞・組織単位での基本的な変化（病理学総論）、さらに各臓器や器官に発生する固有な疾病（病理学各論）を学ぶことで個々の疾病概論を理解する。これにより、1) 疾病の成り立ちが理解できる、2) 疾病の身体におよぼす影響が理解できる、3) 疾病の特徴を説明できる。
授業計画	内容
第1回	病理学概論、病因論（内因と外因）、遺伝と先天異常
第2回	物質代謝異常、細胞障害（変形、萎縮、壊死）
第3回	肥大と化生、修復と再生、異物処理
第4回	循環障害（血液、リンパ液の流れの変化と付随する組織・臓器の変化）
第5回	炎症、感染症（各種の有害刺激に対する生体防御反応による変化）
第6回	免疫病理学（免疫細胞、免疫システムの異常による疾患）
第7回	腫瘍①（疫学、発生概要、組織学的分類）
第8回	腫瘍②（転移、癌、小児癌、癌の病理学的検査、診断、病期）
第9回	循環器系（心・血管の病理）
第10回	呼吸器系（上気道・下気道・胸膜）
第11回	消化器系（消化管・肝臓）
第12回	造血器系（骨髄／末梢血、リンパ節）
第13回	泌尿器系・生殖器系（腎臓・膀胱・乳腺／子宮）
第14回	内分泌系（ホルモン概要、視床下部、下垂体、各内分泌腺）
第15回	内分泌系（ホルモン概要、視床下部、下垂体、各内分泌腺）
履修上の注意	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：岩井
テキスト	「新訂版クイックマスター病理学 第2版」（サイオ出版）
参考図書 その他	

講義名	内科学 I
講 師	主田 英之
学年・期	I年後期、I単位、30時間（講義）
講義目標	理学療法に必要な内科的疾患の概要、病態、診断、治療の理解と、疾患の病態、症状と理学療法の関係について理解する。
授業計画	内容
第1回	内科学概論 （内科学とは、内科とリハビリテーションの関わり）
第2回	内科的診断学 （診断の進め方・臨床検査とのデータの解釈）
第3回	症候学 （症候学とは、症状と徴候、発熱、全身倦怠感）
第4回	症候学 （食欲不振、悪心・嘔吐、易感染性、意識障害、めまい、浮腫、頭痛、リンパ節腫脹、ショック）
第5回	循環器系疾患 （循環器系とその役割、血圧、心臓の構造と機能）
第6回	循環器系疾患 （心拍数と心拍出量、心臓の動脈）
第7回	循環器系疾患 （呼吸困難、胸痛、動悸、浮腫、チアノーゼ、失神、診断と検査法）
第8回	循環器系疾患 （血圧異常、虚血性心疾患、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、先天性心疾患）
第9回	循環器系疾患 （心不全、不整脈、大動脈疾患、末梢血管疾患、心臓リハビリテーション）
第10回	呼吸器系疾患 （構造と機能、呼吸とは、咳嗽と喀痰、喘鳴、呼吸困難、胸痛、チアノーゼ、ばち上指、起座呼吸）
第11回	呼吸器系疾患 （呼吸音、画像、生理的検査、喀痰検査、胸水検査、肺生検）
第12回	呼吸器系疾患 （かぜ症候群、肺炎、肺結核症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患）
第13回	呼吸器系疾患 （肺腫瘍、肺循環障害、肺高血圧症）
第14回	呼吸器系疾患 （胸水貯留、気胸、喀血と吐血、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、呼吸不全）
第15回	呼吸器系疾患 （呼吸器疾患のリハビリテーション）
履修上の注意	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：主田
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 内科学 第5版」（医学書院）
参考図書 その他	

講義名	整形外科科学Ⅰ	
講 師	前田 章	病院で医師として約42年の勤務経験がある。その経験を活かして、整形外科科学Ⅰを講義する。
学年・期	Ⅰ年後期、Ⅰ単位、30時間（講義）	
講義目標	整形外科の基礎科学を理解し、続いて最新の治療について理解する。	
授業計画	内容	
第1回	整形外科解説、整形外科基礎科学・・・骨の構造、機能と病態生理	
第2回	整形外科基礎科学・・・関節・軟骨・神経の構造、機能と病態生理	
第3回	整形外科科学総論・・・診断の基本と主訴、現症	
第4回	整形外科科学総論・・・整形外科的検査法	
第5回	整形外科的治療・・・保存療法	
第6回	整形外科的治療・・・手術療法	
第7回	整形外科疾患総論・・・軟部組織・骨・関節の感染症	
第8回	整形外科疾患総論・・・慢性関節リウマチと類似疾患	
第9回	整形外科疾患総論・・・慢性関節疾患（退行性、代謝性）と四肢循環障害	
第10回	整形外科疾患総論・・・先天性骨系統疾患と先天異常症候群	
第11回	整形外科疾患総論・・・代謝・内分泌疾患	
第12回	整形外科疾患総論・・・骨・軟部腫瘍	
第13回	整形外科疾患総論・・・神経疾患・筋疾患	
第14回	代表的な整形外科疾患の調べ学習	
第15回	代表的な整形外科疾患のまとめ	
履修上の注意		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：前田	
テキスト	「標準整形外科学 第15版」（医学書院）	
参考図書 その他		

講義名	神経内科学Ⅰ	
講 師	中森 友啓	病院で理学療法士として約8年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学Ⅱを講義する。
	清原 克哲	病院で理学療法士として約7年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学Ⅱを講義する。
学年・期	1年後期.Ⅰ単位.30時間（講義）	

講義目標	神経内科領域の各疾患について理解する。はじめに神経解剖学・神経生理学を講義し、神経内科疾患各論を講義する。
------	---

授業計画	内容	
第1回	神経系の構造と機能	（清原）
第2回	運動麻痺	（清原）
第3回	運動失調	（清原）
第4回	錐体外路徴候	（清原）
第5回	姿勢反射障害と姿勢異常、歩行障害	（清原）
第6回	痙攣とミオクローヌス、筋萎縮	（清原）
第7回	感覚障害、疼痛	（清原）
第8回	構音・嚥下障害	（清原）
第9回	脳神経障害	（中森）
第10回	意識障害、睡眠障害	（中森）
第11回	精神症状	（中森）
第12回	高次脳機能障害	（中森）
第13回	自律神経症候	（中森）
第14回	神経学的診断	（中森）
第15回	神経学的検査法	（中森）

履修上の注意	
--------	--

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：中森
------	----------------------

テキスト	「リハビリテーションのための神経内科学 第2版」（医歯薬出版）
------	---------------------------------

参考図書 その他	
-------------	--

講義名	救急救命医学・予防学	
講 師	藤原 聡	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、予防学を講義する。
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、救急救命医学を講義する。
学年・期	1年後期、1単位、30時間（講義）	
講義目標	国民がいつまでも「参加」続けられるために、障害を引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の予防、再発予防の知識と技術を学ぶ。 緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方や心肺蘇生と応急処置について学ぶ。	
授業計画	内 容	
第1回	予防理学療法学総論	（藤原）
第2回	予防理学療法（栄養、スポーツ、コミュニケーション）	（藤原）
第3回	予防理学療法（発達から老化、学童期）	（藤原）
第4回	予防理学療法の実際 （理学療法士の役割、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム）	（藤原）
第5回	予防理学療法の実際（廃用症候群：運動器の機能低下、転倒）	（藤原）
第6回	予防理学療法の実際（廃用症候群：低栄養、口腔・嚥下機能低下）	（藤原）
第7回	予防理学療法の実際（廃用症候群：呼吸機能）	（藤原）
第8回	予防理学療法の実際（廃用症候群：心血管機能）	（藤原）
第9回	予防理学療法の実際（労働災害）	（藤原）
第10回	予防理学療法の実際（再発予防）	（藤原）
第11回	救急救命医学総論	（黒部）
第12回	心停止の予防、早期発見と通報	（黒部）
第13回	一次救命処置	（黒部）
第14回	一次救命処置の実践	（黒部）
第15回	ファーストエイド	（黒部）
履修上の注意	講義内容により講義教室が変更する可能性があるので、必ず週間時間割で確認すること。 講義内容が実技の際は、運動可能な服装で受講すること。（事前に連絡する）	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：藤原	
テキスト	「予防理学療法学要論」（医歯薬出版）	
参考図書 その他		

講義名	リハビリテーション医学		
講 師	前田 剛伸	病院で理学療法士として約12年の勤務経験がある。その経験を活かして、リハビリテーション医学を講義する。	
学年・期	1年後期、1単位、30時間（講義）		
講義目標	リハビリテーションに関わる障害の評価と治療について学ぶ。また、疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。		
授業計画	内容		
第1回	リハビリテーション医学総論		
第2回	リハビリテーション医療の特徴（急性期・回復期・維持期）		
第3回	リハビリテーション室の器械・器具		
第4回	チーム医療		
第5回	リスク管理		
第6回	機能的帰結		
第7回	ストレス		
第8回	機能的帰結の予測に影響する因子		
第9回	プログラムの立案		
第10回	ライフスタイル・アセスメント		
第11回	コンプライアンスとアドヒアランス		
第12回	ライフスタイル・アセスメント（ディスカッション）		
第13回	行動変容（障害者の心理）		
第14回	行動変容（認知行動療法）		
第15回	第1～14回のまとめ		
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：前田		
テキスト			
参考図書 その他	配布資料		

講義名	運動療法学総論		
講 師	前田 剛伸	病院で理学療法士として約12年の勤務経験がある。その経験を活かして、リハビリテーション医学を講義する。	
学年・期	1年後期、2単位、30時間（講義）		
講義目標	臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要な理学療法の基本的事項について学ぶ。		
授業計画	内容		
第1回	運動療法とは		
第2回	疼痛とリハビリテーション		
第3回	創傷・靱帯損傷とリハビリテーション		
第4回	骨折とリハビリテーション		
第5回	筋萎縮とリハビリテーション		
第6回	筋力増強運動（トレーニングの原理・原則）		
第7回	筋力増強運動（筋力増強のメカニズム）		
第8回	関節可動域制限とリハビリテーション		
第9回	関節包内運動（凹凸の法則）		
第10回	関節モビライゼーション		
第11回	関節可動域練習（他動運動）		
第12回	関節可動域練習（ストレッチング）		
第13回	麻痺とリハビリテーション、意識障害		
第14回	筋緊張異常・協調運動障害とリハビリテーション		
第15回	第1～14回のまとめ		
履修上の注意	いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：前田		
テキスト	「機能障害科学入門」（神陵文庫）		
参考図書 その他	配布資料		

講義名	理学療法評価学	
講 師	伊藤 望美	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）	

講義目標 理学療法評価の流れについて理解する。特に、動作観察から問題点を抽出するトップダウン過程の評価方法について理解する。疾病に関係なく理学療法士が実施するバイタルサインを把握するための検査測定技法、形態測定と関節可動域測定について理解する。

授業計画	内容	
第1回	理学療法評価総論①（評価の目的）	（黒部）
第2回	理学療法評価総論②（障害把握、障害と基本動作の関係、PTに求められる要素）	（黒部）
第3回	評価過程（トップダウン、ボトムアップ）	（黒部）
第4回	情報収集：基礎情報、医学的情報、環境的情報	（黒部）
第5回	家屋の評価とPTのアプローチ	（黒部）
第6回	問診の心得、方法、過程	（黒部）
第7回	問診の体験（1）	（黒部）
第8回	収集した情報をまとめ、文章化	（黒部）
第9回	問診の体験（2）補完	（黒部）
第10回	情報収集のレポート作成	（黒部）
第11回	情報収集のレポート修正	（黒部）
第12回	情報収集のレポート修正	（黒部）
第13回	収集すべき情報について	（黒部）
第14回	情報収集のレポート修正	（黒部）
第15回	能力障害の把握と基本動作の選択	（黒部）

履修上の注意 実習可能な服装を用意すること。

成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：黒部	
テキスト	「理学療法評価を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」（南山堂）	
参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価 改訂第2版」（神陵文庫）	

講義名	理学療法評価学	
講 師	伊藤 望美	病院で理学療法士として約18年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）	
講義目標	理学療法評価の流れについて理解する。特に、動作観察から問題点を抽出するトップダウン過程の評価方法について理解する。疾病に関係なく理学療法士が実施するバイタルサインを把握するための検査測定技法、形態測定と関節可動域測定について理解する。	
授業計画	内 容	
第16回	収集した情報から観察する基本動作の検討（黒部）	
第17回	動作観察の必要性、方法とポイント（黒部）	
第18回	動作観察の文章化（黒部）	
第19回	動作分析（観察内容から機能障害の把握）（黒部）	
第20回	統合と解釈、問題点の抽出、目標設定（黒部）	
第21回	バイタルサイン（呼吸・体温・脈拍測定）（伊藤）	
第22回	バイタルサイン（血圧測定・意識障害）（伊藤）	
第23回	形態測定（四肢長測定）（伊藤）	
第24回	形態測定（周径測定）（伊藤）	
第25回	関節可動域測定の方法について（伊藤）	
第26回	関節可動域測定（肩甲帯・肩関節・肘関節）（伊藤）	
第27回	関節可動域測定（前腕・手関節・手指）（伊藤）	
第28回	関節可動域測定（股関節・膝関節）（伊藤）	
第29回	関節可動域測定（足関節・足部・足趾）（伊藤）	
第30回	関節可動域測定（頭頸部・胸腰部）（伊藤）	
履修上の注意	実習可能な服装を用意すること。	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：黒部	
テキスト	「理学療法評価を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」（南山堂）	
参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価 改訂第2版」（神陵文庫）	